

中間評価で指摘された重点取組の1つは

「事故防止対策を実施している家庭の割合」で目標値100%です。



まずは身のまわりのできること“子どもの事故防止”から始めてみましょう。

子どもの事故防止対策

幼児期から小学生にかけて、子どもの死亡原因の第1位は「不慮の事故」です。子どもの事故の内容は、年齢によって特徴がありますが、多くの事故は親の注意や環境づくりによって防ぐことができます。ご家庭で事故防止対策ができていないかチェック欄に「○」をつけてみましょう。

1歳6か月ごろ

項目	チェック欄	
	1回目	2回目
1 子どもを1人で家や車に残さない		
2 自動車に乗るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて乗せている		
3 浴槽に水をためたままにしない		
4 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置く		
5 タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置く		
6 ピーナッツやあめ玉などは手の届かないところに置く		
7 暖房器具（ストーブ・こたつなど）の熱が直接触れないようにしている		
8 ポットや炊飯器は子どもの手の届かないところに置く		
9 ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザインよりも安全性を重視している		
10 階段に転落防止用の柵を取り付けている		

3歳ごろ

項目	チェック欄	
	1回目	2回目
1 子どもを1人で家や車に残さない		
2 自動車に乗るときは、チャイルドシートを後部座席に取り付けて乗せている		
3 浴槽に水をためたままにしない		
4 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置く		
5 タバコや灰皿はいつも手の届かないところに置く		
6 ピーナッツやあめ玉などは手の届かないところに置く		
7 ストーブやヒーターなどは、安全柵で囲い、子どもが直接触れないようにしている		
8 お箸や歯ブラシなどをくわえたまま走らせない		
9 すべり台やブランコの安全な乗り方を教えている		
10 ベランダや窓のそばに踏み台になるものを置かない		

※すべて「○」がつかいましたか？1度だけではなく、時間をおいて再チェックをしてみましょう。

1～4歳に起こりやすい事故

起きやすい事故	予防のポイント
転落・転倒	●ベランダや階段などからの転落 箱、家具など踏み台になるようなものをベランダや窓際に置かない
やけど	●炊飯器や加湿器の蒸気にさわる ●アイロン、ストーブにさわる ●ポット、鍋をひっくり返す ストーブ、アイロン、ポット、鍋などやけどの原因となるものに子どもがふれないようにする／ストーブなどには安全柵をつける
溺れる	●浴槽に落ちる、水遊び わずかな水でも残し湯はしない／お風呂場に外鍵をかける／水遊び時はライフジャケットをつける・目を離さない
誤飲・中毒・窒息	●医薬品、化粧品、洗剤、コイン、豆などを誤って飲む 危険なものは子どもの目にふれない・手の届かない場所にかたづける／ピーナッツなど乾いた豆類をたべさせない
交通事故	●道路への飛び出し 手をつないで歩く／三輪車に乗る・自転車に乗せる時はヘルメットをつける



■ 子どもの事故防止支援サイト

年齢別にチェックできる安全テストを参考に、子どもの事故を防ぐための育児環境の再点検をしましょう。

<http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/index.html>